

## 東邦大学医療センター佐倉病院臨床研修プログラム

### 佐倉・選択専攻科目

#### 形成外科（1～10ヶ月）

### 1 目的と特徴G I O

目的：臨床研修に総合診療方式を導入することにより、全人的医療を実践できる医師としての基礎知識・手技を取得することを目的とする。

特徴：研修医が選択臨床研修を行い将来の専門性にとらわれることなく全人的医療を視野においた基本的な診療能力を修得することを特徴とする。

### 2 プログラム管理運営体制

プログラム委員会は、東邦大学医療センター佐倉病院形成外科部長（委員長）以下、教室スタッフにより構成され、随時会合し協議する。必要な事項は佐倉病院内教育委員会に報告し、指示を受ける。東邦大学医療センター佐倉病院の臨床研修全般についての管理運営は、佐倉病院内教育委員会が行う。

### 3 教育課程

#### 3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は1～10ヶ月である。

東邦大学医療センター佐倉病院形成外科に配置され、外来・病棟業務を行う。

研修は、大森・大橋・佐倉病院合同で行う。症例や希望などにより、3病院内での出張研修を行うことができる。

外来： 外来責任者および外来担当医師について研修を行う。外来診察・処置を通じ、形成外科的基本診察手技を学ぶ。外来手術に助手として参加し、形成外科的基本手技を学ぶ。

病棟： 病棟責任者および病棟チーフについて研修を行う。病棟チーフのもとで入院患者を受け持ち、全身管理・処置・検査などにつき指導を受ける。入院患者が救命救急センターおよびNICU等に収容された場合には、指導医のもとに担当主治医と協力し治療にあたる。手術症例では助手として参加し、形成外科的基本手技を学ぶとともに術前・術後管理を学ぶ。症例により術者として指導医のもとに手術（外来手術を含む）を行う。

研修協力病院における配置は、各病院の指導責任者の指示に従う。

### 3-2 到達目標

#### 3-2-1 行動目標 SBO

- 1) 形成外科の基本的な知識と技術を習得する。
- 2) 形成外科で取り扱う疾患を理解する。
- 3) 形成外科一般検査の意義を理解する。
- 4) 各種画像検査の意義と適応を理解する。

#### 3-2-2 経験目標 SBO+LS

##### 3-2-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 形成外科一般検査の意義を理解し、実施し結果の判定ができる。
- 2) 各種放射線検査の意義と適応を理解し、結果の判定ができる。
- 3) 創傷の治療に対し、適切な処置、処理手技を習得する。
- 4) 形成外科に関連する診療科の知識の習得に務め、チーム医療のできる医師としての研修に務める。

##### 3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 頭蓋・顎・顔面の先天異常(唇裂・口蓋裂、眼瞼下垂症、小耳症など)
- 2) 四肢その他の先天異常(多合指(趾)症、漏斗胸など)
- 3) 創傷治癒過程
- 4) ケロイド・肥厚性瘢痕
- 5) 外傷・熱傷患者の救急処置
- 6) 汚染創・感染創
- 7) 熱傷の深度・範囲の判定
- 8) 中等度の熱傷の全身管理と局所処置
- 9) 熱傷後遺症
- 10) 顔面外傷およびその合併損傷
- 11) 顔面骨骨折
- 12) 皮膚良性・悪性腫瘍、腫瘍切除後の組織欠損
- 13) 母斑・血管腫・色素性疾患

##### 3-2-2-C 特定医療現場の経験

外傷、熱傷例に対し、迅速かつ的確な処置を行うことができ、特殊例では、指導医のもとに治療にあたることができる。

#### 3-2-3 評価基準

到達目標ならびにチェックリスト各項目について達成の有無を自己評価する。  
指導医はその達成を援助する。このリストは研修協力病院でも同じものを使用する。

(チェックリスト添付)

### 3-3 勤務時間

勤務時間：午前9時より午後5時を原則とするが、患者の状態によりこの時間には制約されない。また必要により当直を行う。

研修協力病院における勤務時間は、各病院の規定に従う。

### 3-4 教育行事

東邦大学医療センター佐倉病院

#### 形成外科週間予定表

	午前	午後
月	外来	病棟、外来手術
火	手術 病棟	外来 総回診 医局会 カンファレンス
水	手術 病棟	外来 病棟、検査
木	手術 外来	病棟、検査、外来手術
金	外来	病棟
土	外来 病棟	

その他の教育行事

- ・ 症例検討会 1回/週
- ・ 抄読会 1回/月
- ・ 新規材料・薬品検討会 1回/月

### 3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、基幹病院である東邦大学医療センター佐倉病院形成外科の指導責任者にある。研修医は診療チームに配属され、チーム長の指導医の下でチームの一員として指導を受ける。研修協力病院における指導体制は、各病院で定める。

## 4 研修医個別評価

プログラム修了時に、研修医自己評価結果および指導医の評価結果を参考に形成外科であつかう疾患に適切に対できる基本的な知識、技能、診療態度が習得されたかを指導責任者が総合評価する。

## 形成外科臨床研修チェックリスト（◎は、研修期間6ヶ月の場合）

### 一般知識と診察・診断・治療：

- ・患者と良好なコミュニケーションがとれ適切な診察ができ、必要な検査を選択しその結果を判定できる。
- ・鑑別診断ができる。
- ・入院患者の管理ができる。
- ・形成外科で取り扱う疾患の概要を理解している。
- ◎先天奇形が言え、代表的な手術法を理解している。
- ・創傷治癒過程を理解している。
- ・ケロイド・肥厚性瘢痕の診断ができ保存的治療ができる。
- ・外傷・熱傷患者の救急処置ができる。
- ・汚染創・感染創の取扱いができる。
- ・熱傷の深度・範囲の判定ができる。
- ・中等度の熱傷の全身管理と局所処置ができる。
- ・熱傷後遺症を理解している。
- ・顔面外傷およびその合併損傷を理解している。
- ・顔面骨骨折の症状を理解し、必要なX線撮影を指示でき判読できる。
- ・眼瞼・外鼻・口唇・耳介の解剖学的特徴を理解している。
- ・代表的な皮膚良性・悪性腫瘍の診断ができ、治療法を選択できる。
- ・母斑・血管腫の診断ができ、治療法を選択できる。
- ・レーザー治療の適応疾患が言える。
- ・植皮の分類ができ、それぞれの特徴を理解している。
- ・植皮の使用目的を理解し、適切な植皮法が選択できる。
- ◎植皮片生着のための条件を理解している。
- ・各種採皮法を理解している。
- ・皮弁の定義を理解している。
- ・皮弁の分類ができ、それぞれの特徴を理解している。
- ・代表的な皮弁が言え、その適応と利点・欠点が言える。
- ・Z形成術の定義・理論を理解している。
- ・各種皮弁の使用目的を理解し、適切な皮弁が選択できる。
- ・皮弁生着のための条件を理解している。

### 形成外科基本手技・手術手技：

- ・形成外科で用いる器具を理解し、その操作が正しくできる。
- ◎手術デザインが書ける。
- ・正しいメスの使用法による皮膚切開ができる。
- ・皮下剥離ができる。
- ・確実な止血ができる。
- ・適切な手術器具・縫合材料を選択できる。

- ・創の愛護的な取扱いができる。
  - ・真皮縫合ができる。
  - ・debridement ができる。
  - ・適切な dressing 法の選択・実施ができる。
  - ・治癒過程の良否が適切に判定できる。
  - ・抜糸時期を理解し、正しい抜糸ができる。
  - ・抜糸後の創処置ができる。
  - ・手術患者の術前・術後管理ができる。
  - ・手術の助手ができる。
- ◎皮膚腫瘍の切除など簡単な手術ができる。
- ◎採皮および植皮ができる。
- ◎Z形成術が応用できる。
- ◎顎間固定ができる。
- ◎鼻骨骨折の非観血的整復固定術ができる。